

# DETAIL

ステッチや刻印、ソールの仕様にも年代によって様々モノが存在する。なかには、何故？と首を傾げる珍品もあり。ホープスマア代表の福岡氏の解説を交えて、いざ探究！



## 不思議なソールが装着された珍品！

1970年代製の謎の多い珍品#875。「これだけ状態が良く、ソールを張り替える必要がないのに、ピブラム#4014に似ている変わったソールが付いているんです。もともと付いていたものかもしれませんが、ただ、歴史的にこのソールの存在を認めると、色々とつじつまが合わなくて、おかしいことになる」とは福岡氏。70年代の#875オロラセットは、'50~'60年代のもの比べて、深みのある赤っぽさが特徴だ。しかし、80年代になるとまた黄みがかった色味に戻る。



上●これは70年代頃の靴箱で、「白のかぶせ」と呼ばれている。箱に貼られたシールが特徴。左●これが70年代頃の刻印の入り方で、右足の内側に入る。

このサイズの大きいスクエアステッチも古い#875の特徴だ。羽根を縫い合わせるステッチの上に、スクエアステッチが乗っているのが識別できる。



## シャフトに羽根マークの入った珍しい#875

60年代後半~70年代前半のモデル。上の70年代のレザーと色を比べると、黄色っぽい色味であったことがわかる。「これは"DU-FLEXソール"といって、ひとつのソールではなく、何層かのソールで構成された珍しいソールです。もしかして、昔はアウトソールの一層だけをはがして、張り替えることができたのかもしれないね。この#875は、シャフトに羽根マークの刻印が入った。レアといえばレアな存在です。このウィングが入ること自体が珍しい」と福岡氏。



このモデルも、年代の古い#875特有の大きいサイズのスクエアステッチが入る。羽根を縫い合わせるステッチにかぶっているのがわかる。

60年代後半~70年代前半、主に「生産国表記無犬タグ」のときに作られているので、このウィングの刻印が入ること自体が珍しいことなのである。



## ボリューム感ある木型を採用



# GLOSS

最初の状態でも年代によって色が異なり、経年変化後の色や味も異なる。以下の#875は、すべて90年代のものであるが、それでもこれだけ色が異なるのである。



## 使用環境により経年変化が異なる

同じ年代、同じ品番のブーツを同時に買っても、使用環境によって経年変化の風合いが異なる。写真は、タグから推測すると'92年~'93年前半のモデルだが、驚くほど使われ、染み気味が出ている。乾燥環境で履かれていたと思われる。



01 '99年以降の「羽タグ」モデル。履き込む過程でこすれた箇所なども、革のなかに色が浸透しているため、比較的に濃淡が出にくいのが特徴だ。02 写真は'96年頃のモデル。'94年~'96年頃のモデルは、鮮やかな赤が特徴で、色が落ちやすい。履いていると色が剥け落ちていき、美しい濃淡の風合いが演出される。この頃の赤は、革に浸透しているというよりも、革の上に乗っている印象だ。03 現行のモデルは、革質がしっかりとしているため長くは履きこまなければ、シワや味が出にくい。



# ヴァンテージ・ショップ「ホープスマア」presents アイリッシュセッター マニアックス

レッド・ウィングブーツの歴史を研究する「ホープスマア」に解説をもらい、アイリッシュセッター(#875オロラセット)の長く深い歴史の一端をひも解く。

写真/青木健格、提長則(ともにWPP)、ホープスマア 文/佐藤大典(NERVES SYSTEM)

# TAG

アイリッシュセッターに代表されるタグは、年代を定める重要なヒントである。ここでは、#875のオロラセット系に限った年代ごとのタグを集めて、各年代の特定と変遷を探る。



01. レッド・ウィング社で1940年代~50年代前半まで製造され、ハンティングブーツに装着されていた「ハンタータグ」。アイリッシュセッタータグの前身といわれる。非常に珍しいタグである。この時代、#875の表記での確認はされていない。02. 「刺繍犬タグ」。1950年代中盤から60年代前半のモデルに付き、アイリッシュセッターの表記を使用した最初のタグだ。刺繍犬タグは2種類確認がとれているが、#875で確認ができるのは同タグ。スクエアステッチは、ハンタータグの頃から入っており、大きめのステッチである。03. 1960年代後半~70年代前半のモデルに付き「生産国表記無犬タグ」。ここで刺繍からプリントに変わる。「MADE IN USA」の表記は入らない。04. タグの右に「MADE IN AMERICA」の表記が入る「AMERICAタグ」は、1970年代前半~80年代までのモデルに入る。05. 1981年~90年代前半には、「MADE IN AMERICA」から「MADE IN USA」に表記が変わり「旧犬タグ」となる。ちなみにスクエアステッチは'85年まで入るが、'86年には入らない。小さめのステッチである。06. 「初期半円犬タグ」は、1990年~'91年前半と、製造されていた期間が極めて短いため、滅多に市場に出てこない。犬を囲む半円の中に白っぽい色を使用している。07. 初期半円犬と比べ、色の違う半円になる「裏半円犬タグ」。1991年モデルと、製造されていた期間が短いので、見かけることは少ない。08. 「日半円犬タグ」は、1992年~'93年前半のモデルに付き、タグがタンに配される。09. 1993年~'96年までのモデルに採用された「半円犬タグ」。これが'95、'96、'97年頃のアイリッシュセッターが爆発的に売れた時期に出回っていたタグである。当時は、その爆発的なブームからニセモノも出回っていたようだ。10. 「表犬タグ」は、'96年のモデルに採用された。犬タグが表についているもので、'96年からの生産となる。何千足限定などの情報があるが、定かではない。希少なタグではあるが、履き込むとタグの汚れが目立つのが特徴だ。「MADE IN USA」の文字は、旧犬タグとは異なり、タグの右上に入る。ここから、「#875」→「#8875」へ品番が変わる。オロラセットの継承モデルである。オロイジナルレザーの#875は今回は除く。11. 1997年~'99年前半のモデルに採用された「犬タグ」では、タグがタンに裏側に戻された。12. 1999年中盤~2003年前半に「羽タグ」に変更される。この頃から日本でも親しまれてきた「アイリッシュセッター」という表記がなくなる。13. 2003年中盤から採用された「現行タグ」。タグが両足のタン裏に付けられている。2003年~'04年頃は、表記が消えやすいのが特徴。写真のタグはCM表記が入るが、最近のタグである。

## ヴァンテージブーツの宝庫 「ホープスマア」 Yo Check!!



SHOP DATA  
HOPEMORE / ホープスマア  
東京都世田谷区三宿1-1-19 様ビル1F  
03-6413-8683 11:00~21:00  
6月限定休(月曜祝日の場合、翌平日休み)  
http://www.hopesmore.net/

レッド・ウィングの長い歴史のなかでは、まだまだ解明されていない事柄がたくさん眠っている。その謎をひも解き、レッド・ウィングに対する知識や魅力、ひいてはブーツ自体の素晴らしさを伝えるために、日夜研究を重ねているブーツ専門店が「ホープスマア」である。店内には、ヴァンテージ、デッドストック、ユーズドなどなど、レッド・ウィングをはじめとする、さまざまなブーツで埋め尽くされている。モノを長く使い、大切に「Restore to Life」を掲げるショップである。